

地歴公民(世界史) 慶應義塾大学 文学部 1/1

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式

記述式

分量・難易(前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

設問数は、昨年度と同じく 50 問。大問 4 題も昨年度と同様で変化なし。

設問形式に関して、昨年度は記号選択問題が 1 問出題されたが、本年度はすべて記述式であった。

出題の特徴

古代以降の各分野が広く問われている。文化史が頻出であることも本学部の特徴である。

その他トピックス

全体の難易度は、昨年度よりもやや易化した。例年通り、年代を問う設問が複数出題された。一方、例年の傾向では第二次世界大戦後の出題はあまり多くないが、本年度は 13 問出題され、大問IVはすべてが戦後史であった。史料問題は今年度も出題されなかった。なお、大問IV(J)一国二(制度)は直前講習の「早慶大世界史テスト」でも記述式で出題されており、受講者には有利に働いたであろう。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述式	天文学、飛行、宇宙開発をめぐる歴史	(D) ジョルダノー = ブルーノ、(H) ドレスデンは本学部志望者であれば正解したい設問。宇宙開発に関わる(I)大陸間弾道ミサイル、(J) アポロ 11 号は差が開くところ。	標準
II	記述式	16 世紀までのオスマン帝国史	(E) に関しては「ハンガリー平原」という解答も考えられるが、問題文に「ハンガリー」という用語が登場するため、正解からは排除されるであろう。(J) セリム 2 世はレパントの海戦が行われた時のスルタンであり、フランス人にカピチュレーションを正式に付与したことで注意を払っておきたい。設問(4) イェニチェリ廃止の年代は、いくつかの教科書には記載があるものの、やや細かめ。	やや難
III	記述式	ヨーロッパにおける国家とその長の関係	取り組みやすい設問が多かった。(G) ボーダンを導き出す有力なヒントである「ユグノー戦争」という文言が伏せられているが、主権に関する記述から判断したい。基本事項である(J) コシュートは、「ハンガリー内閣の初代蔵相」という問い方に惑わされず冷静に対処したい。	やや易
IV	記述式	中華人民共和国史	すべて第二次世界大戦後からの出題であった。(A) 政治協商会議、(B) 土地改革、(J) 一国二(制度)は差が開くところ。新疆ウイグルと華国鋒を問うた(E)(I)では漢字を正しく書けるかがポイントとなる。	標準

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

細かい知識への対策が必要とされる一方、本学部では「解答そのものは基本用語だが、解答にいたるプロセスで思考力・分析力が求められる設問」でも差が開く。早い時期から実戦的な問題演習に取り組んでおこう。また本学部で頻出である文化史や中国史では、かなり踏み込んだ学習が必須となる。一方で、第二次世界大戦後の出題は慶大の他学部に比べると多くはないものの、今年度のように大問レベルで出題されることもあるので、習得を怠らないようにしましょう。